

仕 様 書

1 業務名称

さんむ医療センター植栽維持管理業務委託

2 業務場所

千葉県山武市成東 250 番地

地方独立行政法人さんむ医療センター

3 業務の目的

本業務は、地方独立行政法人さんむ医療センター（以下「発注者」という）の敷地内に整備された植栽について、植物個々の生育状況を適切に維持管理することで植栽全体としての美観を保持するとともに、剪定・病虫害防除・施肥等を通じて、植物の健全かつ均整のとれた生育を促すことにより、植栽目標に近づける「育成管理」の視点を取り入れた維持管理の実施を目的とする。

4 植栽目標

植栽の目標形は樹種・植栽場所など条件により様々であるため、目標形について発注者と協議し、確認した上で適切な維持管理を行うこと。

5 業務実施に関する事項

（1）業務責任者の適正な配置

ア 受注者は、適正な履行を確保するため、業務の際は現場に業務責任者を配置し、受託業務の管理及び統括を行わなければならない。

イ 業務責任者は、当該受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者とする。

ウ 業務責任者は、病院利用者や近隣住民等からの問い合わせや要望があった時は、真摯に対応すると共に報告すること。また、受託業務外の内容についてはその内容を監督職員に連絡すること。

（2）業務の再委託

ア 受注者は、受託した業務を一括して他人に行わせてはならない。

イ 受注者は、あらかじめ発注者の書面による承諾を得た場合に限り、当該業務の一部を再委託することができる。この場合において、受注者は、不必要な再委託を行ってはならない。

ウ 受注者が再委託業務について「業務計画の作成」、「工程管理」、「出来形・品質管理」、「安全管理」等について主体的な役割を現場で果たすこと。

6 提出書類及び納品図書など

（1）業務計画書及び工程表

受注者は、契約締結後速やかに業務計画書及び計画工程表を監督職員に提出し、監督職員の承諾を得ること。

(2) 納品図書

受注者は、業務が完了したときは、業務完了届及び作業写真（作業前、作業中、作業後の別がわかるもの）を速やかに発注者へ提出し、検査を受けなければならない。また、受注者は発注者の求めに応じて作業報告書等作業工程に関する書類を提出すること。

7 業務上の注意事項

(1) 業務の協議・連絡

監督職員との協議・記録

- ア 受注者は業務着手にあたり監督職員と良く話し合い、剪定の目的・目標・留意事項などを良く理解したうえで、業務計画を作成し、各々の作業を適切に行うこと。
- イ 業務上の重要点や施工原則を変更する場合などは互いに協議した内容を記録し、承認願いは文書で行うこと。
- ウ 受注者は計画工程表に則って作業を行い、予定の変更がある場合は事前に監督職員に連絡すること。
- エ 作業中、以下のような問題・異常を発見した場合には監督職員に報告し、対応策を協議すること。
 - ・人、車等の通行箇所において、安全性に問題が生じる可能性がある場合（倒木、枝折れ等）
 - ・樹木、草本の異常（病虫害など）を発見した場合
 - ・その他、樹木以外の異常（防犯・防災に関する異常など）を発見した場合。
 - ・病院利用者、近隣住民等からの問い合わせ等があった場合

(2) 土地への立入り

受注者は、当該業務を実施するため、私有地に立入る場合は、監督職員及び関係者と十分な協議を行い、業務を円滑に履行するよう努めなければならない。尚、やむを得ない理由により現地への立入りが不可能となった場合には、ただちに監督職員へ報告し、指示を受けなければならない。

(3) 業務上の配慮事項

受注者は、業務従事者の服装や行動について、施工場所の利用者及び近隣住民に不快感を与えないように配慮するとともに、業務の実施にあたり、事前に近隣住民や利用者等に案内等の周知を図るものとする。また、業務の実施に際しては、適切な環境対策を実施し、円滑な業務遂行に努めなければならない。

(4) 緊急時の連絡体制

受注者は、災害等が発生した場合及び発生が予測される場合は、臨機の対応がとれるよう緊急時の連絡体制に基づいて、被害を最小限に食い止めるものとする。

(5) 廃棄物の処理

業務で生じるによる発生材(剪定・刈込の枝葉、刈り取った草など)については一般廃棄物とし、適切に処理した旨を示した伝票を提出しなければならない。ただし、特記事項のあるもの（草刈・芝刈における「刈りっぱなし、集草まで、運搬まで」など）はこの限りではない。

業務で生じる発生材以外の塵芥については1箇所に収集・分別し、その処理については監督職員と協議すること。

8 業務上の義務・責務

安全等の確保

(1) 必要な教育

受注者は業務の実施にあたり、作業着手前までに関連作業員を集めて適切な時間をかけて新規入場者教育及び、当該業務に必要な安全衛生教育を行うこと。また、業務途中で新たに加わる作業員についても同様に新規入場者教育及び安全衛生教育を行うこと。

(2) 安全確保

受注者は、業務の実施に際して適切な作業帯・交通規制帯の設置及び交通誘導員を配置し、作業員の安全確保と共に付近住民、通行人及び通行車両等第三者の安全確保に努めること。

(3) 関係法令に基づく措置等

受注者は、業務の実施に際しては、労働安全衛生法その他関係法令に基づく措置を講じておくこと。

(4) 指導及び監督

受注者は、業務実施中の安全管理について、適時巡視を行って指導及び監督に努めること。

(5) 記録の提出

受注者は発注者の求めに応じ、安全教育等に関する記録を提出すること。

9 守秘義務

受注者は、業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならず、かつ、他の目的に使用してはならない。契約終了後も同様とする。

10 法令順守等

本仕様書に定めのない業務上必要な軽易な事項については、関係法令等を遵守し、受注者の責任において処理するものとする。

受注者は、その使用人とは適正な雇用契約を結び、労働関係法令を遵守しなければならない。業務の履行に当たっては、労働基準法その他関係法令を遵守しなければならない。

道路上の作業になる場合は、作業に先立ち「道路使用許可証」を取得し許可条件を遵守すること。

11 損害賠償等

受注者は、当該業務の実施に伴って受注者の責に帰すべき理由により第三者に損害を及ぼしたときは損害を賠償しなければならない。

業務実施中に事故が起こったときは、ただちに発注者及び関係機関に通報するとともに、受注者は自らの責任において処理するものとする。受注者は、事故の経緯について、事故発生後ただちに監督職員に口頭連絡し、その後速やかに書面をもって経過報告すること。

12 その他

発注者は受注者の業務履行状況を不適当と認めた場合は、その理由を明示し業務の改善を受注者に求めることができる。

受注者は発注者より改善を求められた場合は原因追求を行って業務の改善を図り、原因・改善方法について発注者に改善報告書を提出し、承諾を得てから業務の再開をしなければならない。

受注者は、発注者からの指示に対しては、迅速な処理を行うとともに、早急に結果を報告するものとする。

その他、本仕様書に定めのない事項については、千葉県土木工事共通仕様書「植栽・緑地管理編」を参考に監督職員と協議し、決定するものとする。

13 実施条件

(1) 実施環境

2階及び4階屋上庭園へのアクセスは、業務用エレベーターを利用して差し支えない。ただし、利用の際は、患者搬送等の病院業務を優先すること。

(2) 実施上の留意事項

ア 詳細は、別紙1「実施月別業務一覧」のとおりとする。

イ 原則、作業は運営日の午前8時30分から午後5時に行うこと。

ウ 作業の具体的な実施日・時間については、監督職員との協議によって定めること。

エ 受注者は、危険な器具の管理を慎重に行うものとする。また、施工において立ち入り禁止の必要がある場所は、職員の承諾を受け適切な防護を講じなければならない。

オ 防護服の着用等の新型コロナウイルスへの対策を求められる場合は、その指示に従うこと。

カ 業務実施に先立ち、担当職員と現地確認の上、剪定や病虫害防除の方法を協議し、最適な方法を選択すること。

キ 樹木の状態を確認し、枝の枯れ、樹木の衰弱、病虫害などがある場合は、監督職員に報告し、対応を協議すること。

14 業務担当に関する事項

業務責任者の資格

業務責任者は、「1級又は2級造園施工管理技士」とする。

15 実施方法

(1) 樹木剪定

資格者の配置

作業中は「1級又は2級造園技能士」もしくは「1級又は2級造園施工管理技士」を配置し、適切な指導管理の下作業を行うこと。

(2) 樹木剪定の目的

剪定は樹形の骨格づくり、樹冠の整正、こみすぎによる病虫害及び枯損枝の発生防止等を目的とする。

(3) 協議と記録

- ア 樹木剪定着手にあたり、受注者は監督職員と良く話し合い、剪定の目的・目標・留意事項などを良く理解したうえで、各々の作業を適切に行うこと。
- イ 協議した内容は、記録すること。特に施工原則（Ex.ぶつ切り、芯止めの禁止）を変更する場合や業務上の重要点は丁寧に記載すること。
- ウ 剪定方法は、それぞれの樹種、樹形に応じて、最も適切な方法（枝すかし、切詰め、枝抜き、切返し、枝おろし等）によって行うこと。

(4) 見本切り

- ア 作業の始めには見本切りを行い、監督職員の承諾を得てから作業を行うこと。
- イ 実施場所が複数ある場合は、監督職員と協議すること。
- ウ 剪定期間が異なるときは、改めて見本切りを行うこと。

(5) 樹木の樹姿及び仕立て方

- ア 景観上の目的から規格形にする場合を除き、自然形仕立てとする。
- イ 特に必要と認められる場合を除き、見通し等を考慮するとともに、通風、採光、通行等において障害となる枝は除去すること。
- ウ 樹木の上方や南側の樹勢が盛んな部分は強く、下方や北側の樹勢が弱い部分は弱く剪定すること。

(6) 剪定作業上の留意事項

- ア ぶつ切りは原則として行わない。やむを得ずぶつ切りを行う場合には監督職員と十分に協議を行うこと。
- イ 太枝については二段伐りを行うこと。必要に応じて、吊り切りなどの安全対策を施すこと。
- ウ 樹形に応じて芯止めが必要な場合は、監督職員と協議して決定すること。
- エ 切詰剪定を行った場合は、保湿と殺菌を目的に切口に防菌癒合剤を塗布すること。

(7) 敷地境界の離隔、安全性などの確保のため、以下を原則とする。

- ア 道路沿いの樹木については、車道上 4.5m、歩道上 2.5mの建築限界を守ること。ただし、樹高が低い場合は監督職員との協議を行って、剪定量を決定すること。
- イ 交通への視覚障害（視距、信号機・標識の視認）、死角の要因となる枝葉は除去し、見通しを確保すること。

(8) 不要になった棕櫚縄・幹巻材等や不用意に取り付けられた鉄線等は取り除くこと。

(9) 作業中、以下のような問題を発見した場合には監督職員に報告し、対応策を協議すること。

- ア 人、車等の通行箇所において、倒木・枝折れなど安全性に問題が生じる可能性がある場合
- イ 病虫害を発見した場合

(10) 作業にあたっては、以下のような配慮を行い安全確保に努めること。

- ア 作業にあたっては人、車等の通行場所の安全確保を確実に行って事故を防ぐこと。
- イ 高所での作業は、墜落制止用器具の着用を必ず行うなど安全対策を十分に行うこと。

(11) 高木基本剪定

- ア 樹形の骨格をつくることを目的とする。
- イ 剪定時期は、原則として10月以降とする。但し、夏期の実施については、十分に監督職員と協議して決定すること。
- ウ 原則として、極寒時は暖地性樹木の剪定は避けること。

(12) 高木軽剪定

- ア 樹冠の整正及び枝の込みすぎによる枯損枝の発生防止を目的とする。
- イ 切詰め、枝すかし(枝抜き)等を主体とし、全体として枝葉量を減少させて台風による転倒対策を行うつつ、外輪部には葉を残して日陰をつくること。

(13) 中木剪定

樹形の骨格をつくることを目的とする。

(14) 寄植、玉物、生垣刈込

- ア 樹木の特性に応じて適切な時期及び刈込量等を十分に監督職員と協議し、決定すること。
- イ 花卉類は、花芽の分化時期と着生位置に留意し刈込を行うこと。

(15) 仕立て方の留意点

- ア 枝の込み合っている部分は中透かしを行うこと。
- イ 列植ものは高さ・幅の通りを通すこと。
- ウ 刈込面に枝の切口(直径1cm程度以上)があるとき及び、切口を傷めた場合は切り戻しを行うこと。
- エ 玉物刈込は刈込地原型を十分考慮しつつ、樹冠周縁の小枝は輪郭線を作りながら刈込むこと。
- オ 生垣刈込は1度で刈込まないで、数回の刈込を通して徐々に刈込地原型に仕立てること。特に、ヒノキやサワラのように不定芽の発生しにくいものは注意深く行うこと。
- カ 生垣刈込の上幅は下幅よりも狭くすること。(概ね3~5厘勾配程度)
- キ 生垣及び列植部において枝葉の疎放な部分は、必要に応じて疎密をなくすように枝葉の誘引を行うこと。

(16) 管理目標にはない植物の除去

- ア 刈込範囲内に、実生の木がある場合は根元より除去を行うこと。
- イ つる性植物が樹木に絡まっている時は除去すること。

(17) 薬剤散布

- ア 病虫害防除を目的とする。

- イ 使用する薬剤の種類及び使用方法については、病虫害の発生状況等を鑑み、監督職員と協議のうえ決定するものとする。

(18) 施肥

- ア 植物が適正に生育するために必要な養分を供給することを目的とする。
イ 使用する肥料の種類については、監督職員と協議のうえ決定するものとする。

数量及び種類等

(外構)

名称	規格	数量	単位	備考
常緑中高木剪定	$C < 0.3\text{m}$	1	本	モミノキ
常緑中高木剪定	$0.3 \leq C \leq 0.6$	64	本	シラカシ、 アラカシ他
落葉中高木剪定	$C < 0.3\text{m}$	27	本	ヤマボウシ ウリハダカエデ
生垣刈込	$1.5\text{m} \leq H \leq 2.0\text{m}$	91	m^2	イヌマキ
低木手入れ		2145	m^2	
地被混植手入れ		195	m^2	
薬剤散布		2344	m^2	低木・地被混植部
施肥		2344	m^2	低木・地被混植部

(1階さんむの庭①、2階さんむの庭②及び4階空のさんむガーデン)

名称	規格	数量	単位	備考
常緑中高木剪定	$C < 0.3\text{m}$	15	本	ソヨゴ ヤマモモ他
常緑中高木剪定	$0.3 \leq C \leq 0.6$	3	本	シラカシ、 タブノキ
落葉中高木剪定	$C < 0.3\text{m}$	3	本	ヤマボウシ ウリハダカエデ
落葉中高木剪定	$0.3 \leq C \leq 0.6$	4	本	コハウチワカエデ アオハダ
低木地被手入れ		1	式	1F、2F、4F
薬剤散布		197	m^2	
施肥(高木・低木地被)		197	m^2	

別紙 1

実施月別業務一覧

工種		回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	備考
外構	常緑中高木剪定	1回										○			65本
	落葉中高木剪定	1回							●						27本
	生垣刈込	2回			○							○			91㎡
	低木地被手入れ 地被混植手入れ	2回	○				○								2,340㎡
	薬剤散布	2回			○							○			2,344㎡
	施肥	2回	○						●						2,344㎡
さんむの 庭①・② ・ 空のさんむ ガーデン	常緑中高木剪定	1回										○			18本
	落葉中高木剪定	1回							●						7本
	低木地被手入れ	2回			○							○			1式
	薬剤散布	2回			○							○			197㎡
	施肥	2回	○						●						197㎡

※7年度は1月2月の間に行う落葉中高木の剪定と施肥は3月に行うこと。